



行事のご案内	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
盆裁展												
観梅会												
俳句展												
桜のりへん												
新緑の遊歩道開放												
花しよつこ展												
朝顔展												
夏の古建築公開												
菊花展												
紅葉の遊歩道開放												
紅葉の遊歩道開放												



アンケート(ご来園者満足度調査)
ご協力のお願い



三溪園へのアクセス



開園時間 9:00~17:00(入場は16:30まで)

入園料	大人 (高校生以上)	子ども (小学生・中学生)	横浜市内在住の 65歳以上(※1)
一般	900円	200円	700円
団体(10名以上)	800円 400円(※2)	100円	600円
年間パスポート	2,500円	700円	2,000円
障がい者	障害者手帳を提示した本人および付添の方1名まで無料		

(※1) ご住所と生年月日がわかる公的身分証(運転免許証、保険証等)をご提示いただいた本人に限ります。
(※2) 教職員が引率する高校生以上の団体に限ります。

駐車料 乗用車 2時間まで1,000円、以降30分毎に200円
バス 1台につき1,000円

休園日 12月26日~31日

- お願い
- ペットを連れて園内に入場することはできません。(身体障害者補助犬を除く)
 - 園内は全面禁煙です。
 - 園内の動植物の採集・持ち出しはできません。
 - 内苑・旧矢筈原家住宅内で飲食はできません。
 - 建物・庭園の使用、ブライダル撮影等は事前許可が必要です。事務所までご連絡ください。

公益財団法人 三溪園保勝会

〒231-0824 横浜市中区本牧三之谷 58番1号
TEL 045-621-0634・5 FAX 045-621-6343
<https://www.sankeien.or.jp>

※お問い合わせの際は、番号をお間違えないようご注意ください。

三溪園について

三溪園は、明治時代末から大正時代にかけて製糸・生糸貿易で財をなした横浜の実業家・原三溪(本名 富太郎)が、東京湾に面した“三之谷”と呼ばれる谷あいの地に造りあげた、広さ約175,000㎡(53,000坪)の日本庭園です。明治39(1906)年に一般に公開された外苑と、三溪が私庭としていた内苑の2つの庭園からなり、京都や鎌倉などから集められた17棟の歴史的建造物と四季折々の自然とがみごとに調和した景観が見どころとなっています。

三溪は、芸術家や文学者などの文化人たちと広く交流したことも知られ、三溪園は美術・文学・茶の湯など近代日本文化の一端を育んだ場所でもあります。学術上・芸術上、そして観賞上優れていることから、平成19(2007)年には国の名勝に指定され、庭園全域も文化財として位置づけられました。

三溪園の歴史

明治初年	原 善三郎(原家初代、三溪の義祖父)、のちに三溪園となる一帯の土地を購入。
明治20年代	善三郎、山上に別荘 松風閣を建てる。
明治35年ごろ(1902)	善三郎が死去し(明治32年)、この頃から三溪、三溪園の造園に着手。住まいとして鶴翔閣を建て、三溪園の地を本宅とする。
明治39年(1906)	三溪園開園。現在の外苑を無料で一般に開放。
大正3年(1914)	旧燈明寺三重塔を移築。(外苑の完成)
大正6年(1917)	臨春閣を移築。
大正11年(1922)	聴秋閣を移築。(内苑の完成)
大正12年(1923)	関東大震災により、数棟の建物が損壊・消失。
昭和14年(1939)	三溪、死去。
昭和20年(1945)	第2次世界大戦の空襲により、大きな被害を受ける。
昭和28年(1953)	原家から財団法人三溪園保勝会の管理となる。
昭和33年(1958)	戦災の被害を受けた建物・庭園の復旧工事が終了する。
昭和35年(1960)	旧矢筈原家住宅を移築。
昭和45年(1970)	本牧海岸の埋め立てにともない、南門入口を設置。
昭和62年(1987)	旧燈明寺本堂を移築。
平成元年(1989)	三溪記念館開館。
平成12年(2000)	鶴翔閣(旧原家住宅)を修復・整備。
平成19年(2007)	国指定名勝となる。

三溪園の保存に向けたご寄付のお願い



三溪園 SANKEIEN GARDEN

国指定名勝



外苑

明治39(1906)年、一般に向けて公開されたエリア。京都・燈明寺から移された室町時代の建築・三重塔がランドマークとして配され、ウメ・サクラ・ハナショウブ・ハスなど、四季折々の花を中心に楽しめます。

外苑の建造物

1 正門門柱 せいもんもんちゅう

建築年：明治39(1906)年
開園時には、三溪自筆による「遊覧御随意(ゆうらんごすい) 三溪園」の表札が掲げられました。

2 旧燈明寺三重塔 きゅうとうみやうじさんじゅうのとう **重要文化財**

建築年：室町時代 康正3(1457)年／移築年：大正3(1914)年
京都・木津川市の燈明寺(廃寺)にあった建物。
現在、関東地方にある木造の塔では最古。

3 林洞庵 りんどうあん

建築年：昭和45(1970)年
宗偏流林洞会から寄贈された茶室。

4 横笛庵 よこぶえあん

建築年：明治41(1908)年
田舎家風草庵。
奈良・法華寺からの移築ともいわれるが、詳細は不明。

5 旧東慶寺仏殿 きゅうとうけいじぶつでん **重要文化財**

建築年：江戸時代 寛永11(1634)年／移築年：明治40(1907)年
縁切寺の名で知られる鎌倉・東慶寺にあった禅宗様の仏堂。

6 旧燈明寺本堂 きゅうとうみやうじほんどう **重要文化財**

建築年：室町時代 康正3(1457)年／移築年：昭和62(1987)年
三重塔と同じ、京都・燈明寺から移築。

7 旧矢筈原家住宅(合掌造り)

きゅうやのはらげじゅうたく **重要文化財**

建築年：江戸時代後期／移築年：昭和35(1960)年
飛騨・白川郷にあった建物。園内にある歴史的建造物の中で唯一内部を見学できる建物です(9:00~16:30)。式台玄関や書院造の座敷など農家ながら立派な接客の空間を備え、寺院に用いられる火灯笼がつけられるなど、飛騨の三長者の一人ともいわれた矢筈原家の豪勢ぶりがうかがわれます。現存する合掌造では最大級の民家。
屋内では飛騨地方で使われた民具を展示しているほか、いろりでは毎日薪がくべられています。黒光りした柱や煙の匂いが昔の生活をほうふつとさせてくれます。

8 鶴翔閣 かくしょうかく **横浜市指定有形文化財**

建築年：明治35(1902)年 平成12(2000)年修復
三溪が住まいとして建てた、延床面積950㎡の規模を誇る建築。三溪と交流のあった文化人や政財界人らが多く出入りした場所としても知られています。第2次世界大戦中に改築されましたが、近年の復旧整備により創建当初の姿にもどされました。現在では、さまざまな利用に対応可能な貸出施設として活用されています。



20 三溪記念館 さんけいけいねんかん

建築年：平成元(1989)年
建築家・大江宏(1913~1989)の設計による展示施設。若き芸術家の支援や大震災後の横浜の復興など多方面にわたって尽力した三溪の業績やゆかりの資料・美術品などを紹介。

内苑

原家が私庭として使用していたエリア。かつては"桃山御殿"と称された臨春閣を中心に古建築と庭園が一体となった空間が広がります。

内苑の建造物

9 御門 ごもん **横浜市指定有形文化財**

建築年：江戸時代 宝永5(1708)年ごろ／移築年：大正時代
京都東山の西方寺にあった薬医門。

10 白雲邸 はくうんてい **横浜市指定有形文化財**

建築年：大正9(1920)年 倉は大正10(1921)年
三溪が隠居所として夫人とともに暮らした数寄屋風建築。
倉は初期の鉄筋コンクリート造。

11 臨春閣 りんしゅんかく **重要文化財**

建築年：江戸時代 慶安2(1649)年／移築年：大正6(1917)年
紀州徳川家初代藩主の頼宣が和歌山・紀ノ川沿いに建てた数寄屋風書院造りの別荘建築。内部には狩野派などの絵師による障壁画の複製(オリジナルは三溪記念館で保存・展示)や洗練されたデザインが各所にみられます。

12 旧天瑞寺寿塔覆堂 きゅうてんずいじじゅうとうおおいどう **重要文化財**

建築年：桃山時代 天正19(1591)年／移築年：明治38(1905)年
豊臣秀吉が京都・大徳寺に母の長寿祈願のために建てさせた寿塔(生前墓)を納めるための建築。

13 月華殿 げっかでん **重要文化財**

建築年：江戸時代 慶長8(1603)年／移築年：大正7(1918)年
京都・伏見城にあった、大名来城の際の控え所として使われたといわれる建物。

14 金毛窟 きんもうくつ

建築年：大正7(1918)年
三溪の構想による一畳台目(1.8畳ほど)の茶室。

15 天授院 てんじゅいん **重要文化財**

建築年：江戸時代 慶安4(1651)年／移築年：大正5(1916)年
鎌倉・建長寺近くの心平寺跡にあった禅宗様の地藏堂の建物。

16 聴秋閣 ちようしゅうかく **重要文化財**

建築年：江戸時代 元和9(1623)年／移築年：大正11(1922)年
京都・二条城内にあったといわれる、徳川家光・春日局ゆかりの楼閣建築。

17 春草廬 しゅんそうろ **重要文化財**

建築年：江戸時代(小間) 広間部分は三溪園移築後に増設。
移築年：大正11(1922)年
三畳台目(3.8畳ほど)の小間は織田信長の弟・有楽(うらく)の作といわれる茶室。

18 蓮華院 れんげいん

建築年：大正6(1917)年
三溪の構想による茶室。

19 海岸門 かいがんもん

建築年：江戸時代／移築年：大正時代
御門と同じ、京都・西方寺にあったもの。